建築学科 建築コース カリキュラムマップ　2019年度

赤字：必修科目（27単位）　青字：選択必修科目（８単位以上）

科目群の学習・教育目標

計画・設計系

建築図面における表現能力
建築やその周囲に求められる基本的な内容について図面で的確に表現することができる。デジタル技術を活用した表現技術を身につける。

建築設計・計画に関する能力
用途に応じた機能美ある建築や都市を実現すべく、その構成や繋がり、意匠などを深く理解し設計できる。

歴史的・文化的建築物を理解する能力
歴史的、文化的に貴重な建築についてその変遷を含めて深く理解することができる。

建築史	建築と人間との関わりを歴史を遡って学び、それらを生み出した社会構造を背景として考えることで、時の流れを超えてグローバルな視点から現代建築についてより深く理解する基盤を築く。
意匠	〈空間〉や〈構成〉といった概念及び分析手法を通して、表現の対象としての建築のあり方を理解すると共に、設計として実践するための基礎的な能力を身につける。
計画	建築や都市・地域における空間や環境に対する使い手の視点に基づいた分析・評価を通して、建築設計や都市・地域の計画を支える知見や条件を提示・提案する基礎能力を身につける。
設計製図	計画・意匠、構造・材料、環境・設備といった建築学の各分野における知識を統合し、調和の取れた建物として空間化するための構想力、思考力、表現力を身につける。建築空間を正確に表し、意図を伝達するための図面表現力を身につける。

環境・設備系

建築環境・設備に関する知識とスキル
環境に配慮し、利用者が快適に利用できる建築や都市を計画・実践するために、環境・設備面の視点から諸問題解決のために必要な技術的な知識とスキルを習得し、適用・応用することができる。さらに、検証実験演習を通して、現象を把握し、環境改善のための評価と設計を行うことができる。

環境	建築環境工学の基本となる、熱・湿気・光・色・空気・音・水等の各分野・項目を対象として、建築計画を実践するために必要な定量的評価のための物理的原理を理解し、計算手法を習得する。
設備	建築設備における空気調和・衛生および電気設備に関する装置とシステムを学び、建築設備の位置づけと法体系、問題点を理解し、基本的な設計手法を習得する。
実験・演習	音・空気・光・熱・水等の建築環境分野・項目を中心として、測定や実験を通して、基礎的な原理や測定法についての理解を含め、測定・解析、評価の手法を習得する。

構造・材料系

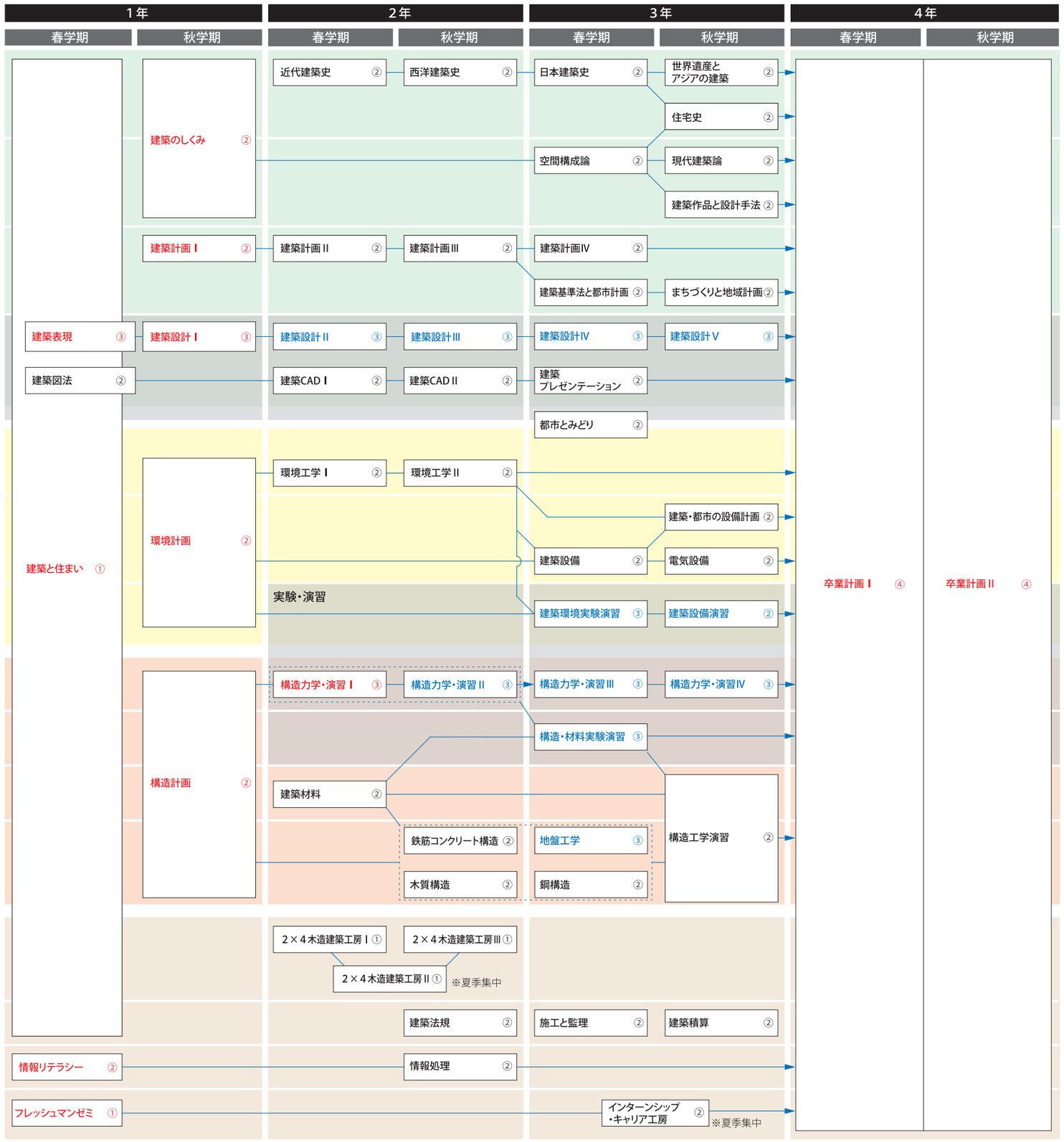
構造力学の基礎と応用
災害時にも人命や財産を保全し得る安全な建築物を実現すべく、建築材料の特性や建築構造の力学的な特徴を理解することができる。さらに、建築物に働く力学的な現象を把握し、空間や部材、接合部に対して構造設計ができる。

各種の構造に対する構造設計
各種の構造に対して、その力学的な特徴を踏まえて適切に構造設計ができる。

構造力学	外力などにより発生する建築部材の応力や変形、および反力などの計算ができるようになり、安全な建築を実現するために必要な力学的現象を把握できる。
実験・演習	一般的な構造材料である木材、鉄骨、コンクリート等を用いた試験体を製作し、加力装置も扱えるようになる。実験とデータを用いた演習を通して力学的な性質を検証できる。
材料	床・壁などに用いられる各種建築材料や、コンクリートを始めとした各種構造材料の基本的な性質を学び、建築設計・施工に関わる建築材料の基本事項を習得する。
各種構造	構造材料の特性を理解したうえで、それらの特性が反映された各種構造でどこが重要ポイントかを踏まえ、各種構造の構造設計ができる。

実務・職業関連

専門統合化能力
幅広い専門科目の知識を統合・発展させ、それらを具体的な提案や問題解決に応用できる。

キャリアデザイン能力
建築関連分野の動向を理解し、将来の進路を幅広く展望したうえで、自ら進みたい方向を決定できる。

カレッジマイスタープログラム	建設プロジェクトの企画・設計から、実施・完了までの一連の工程を通して、計画実現に向けたチームによる課題解決方法やプロジェクト運営方法を修得する。
実務建築士	建築の実務で重要度の高い実践的知識を学修し、習得する。
情報	専門科目の学修、研究等に必要な、コンピュータを用いた表計算やプログラミング、表現技術を身につける。
導入キャリア	大学で何を学ぶのか、将来の夢や職業を実現するためにどのような専門性を身につけるのか、より具体的にイメージできる。